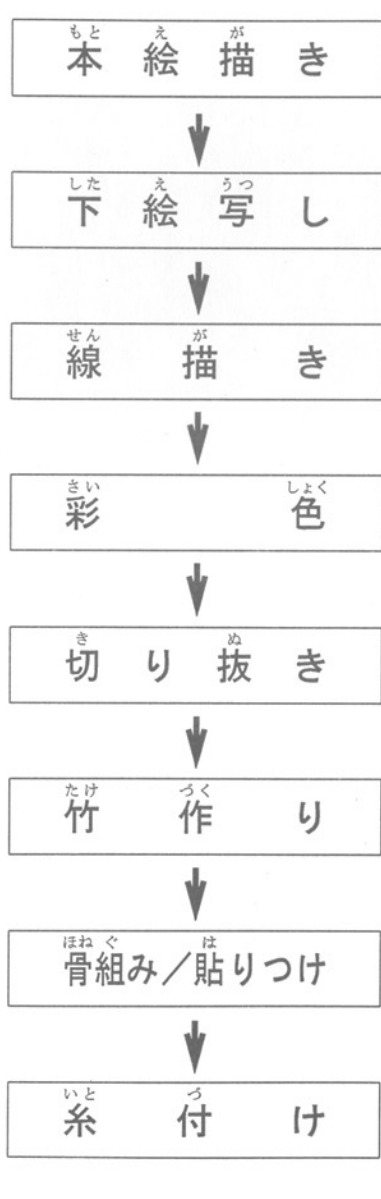


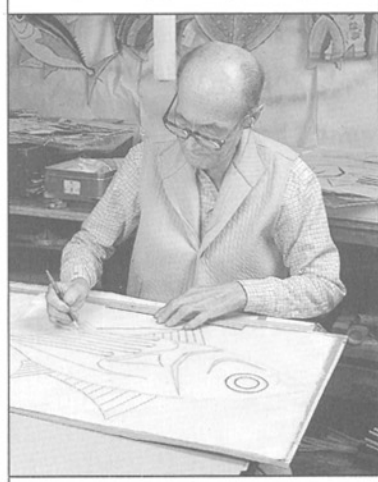
焼津魚侃の製造工程

焼津魚侃は、井川政吉さんの創作によるものなので、一般的な侃の作り方は多少違って、出来るかぎり一般の人たちにも作れるように簡単な工程に工夫されています。

本絵を肉筆で描いてそれを和紙に写します。ただし、骨組みだけは経験が必要とするところです。

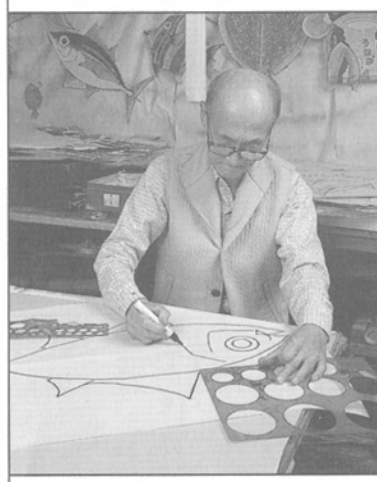


下絵写し



本絵の上に和紙を重ね、えんぴつで和紙に本絵を写し取る。

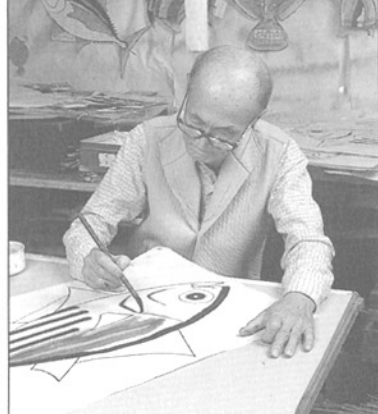
本絵描き



版木のようなものではなく、すべて肉筆で描かれる。

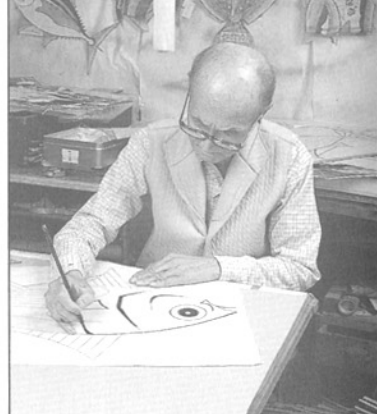
模造紙に原版となる本絵を描く。

彩色



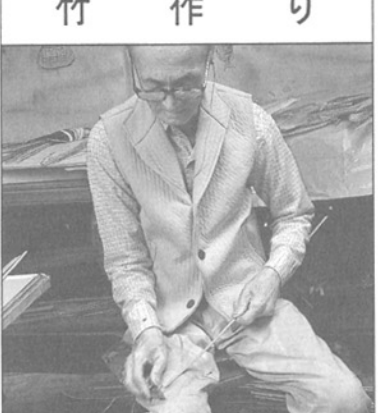
魚の種類に合わせて色を選び、和紙に色のじみがでないよう、特殊な化学染料で色付けする。

線描き



写し取った下絵に墨で線を重ね、魚の形をくつきりとさせる。

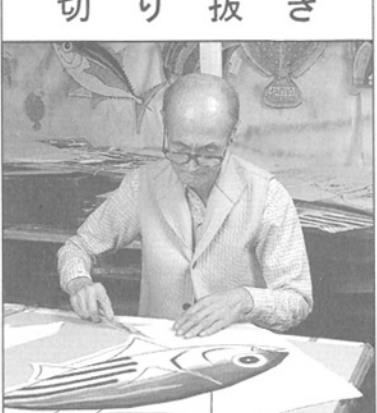
竹作り



侃の形や大きさに合わせて、骨組みとなる竹を削り、削って作る。

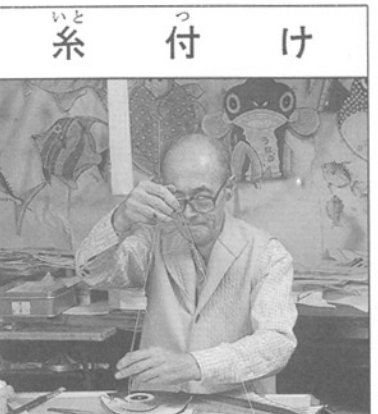
竹は、侃の種類や大きさによって厚みを変えるだけでなく、軸となる部分は厚みをもたせ、周辺部分は薄いものを使用する。

切り抜き



彩色した和紙を竹との貼り合わせ部分を残し、骨組みよりもひと回り大きくカッターで切り抜く。

糸付け



それぞれの魚の型に合わせて糸を張り、バランスを取る。

魚の形によってすべて重心が違うので、どうバランスを取るかは職人の技術がものをいう。

骨組み/貼りつけ



竹をそれぞれの魚の型に合わせて、曲げたりしながらボンドで和紙に貼りつけ、骨組みを作る。